

信頼して話せる場所に

高知心理療法研20年

心理療法の一つ「箱庭療法」を用いて相談に当たっている高知心理療法研究所（高野祥子所長、高知市愛宕町1丁目）が今月で開設20年を迎えた。相談者が作る「小さな庭」には「疲れた心」「悲しい心」、そして誰にも言い出せなかった「本当の気持ち」が表現される。「信頼して話せる場所に」。高野所長らが始めた取り組みを頼って足を運んだ相談者は約1700人になる。

（山崎彩加）

同研究所は、元教員と表現する。で臨床心理士の高野さんが所長となり、1991年に開設。

臨床心理士、医師、心理カウンセラーの計15人のスタッフが、箱庭療法を中心に遊戯療法、夢分析、絵画療法などを行っており、相談内容は不登校をはじめめ家庭や職場のメンタルヘルス、神経症、うつ病から非行まで多岐にわたる。

箱庭療法はセラピストが見守る中、砂の入った浅い箱に人間や動物などのミニチュア模型を自由に立てた立体的なイメージを作ってもらい、その人の心のしこりを解きほぐしていく心理療法。高野所長は「心の内面の探検に出るようなもの」

同研究所は今後も相談者の「自己治癒力」を引き出すことを目標に取り組みを続ける方



箱庭療法について説明する高野祥子所長（高知市愛宕町1丁目の高知心理療法研究所）

1700人の心解きほぐす

針で、高野所長は「誰かに悩みを分かってもえたら心は軽くなる。悩んでいるなら信頼して話せる場所を見つけてほしい」と話している。

開所日は月・木曜日と祝日以外の午前10時から午後5時まで。面接は有料。

19日に記念シンポ

高知心理療法研究所は開設20周年を記念し、19日午後1時から同4時半まで、高知市の県民文化ホールで「19ころ」の声を聴く」と題したシンポジウムを開く。

臨床心理士として第一線で活躍中の皆藤章・京都大学大学院教授が基調講演。皆藤教授、秋田巖・京都文教大学大学院教授、高野祥子所長の3人のパネル討議も行う。

参加費は2千円。チケット購入の問い合わせは同研究所（088・873・8845）

で開催まで連日受け付ける。